

カリキュラム・マネジメント

・カリキュラム・マネジメントとは

各学校には、学習指導要領等を受け止めつつ、子どもたちの姿や地域の実情等を踏まえて、各学校が設定する学校教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき教育課程を編成し、それを実施・評価し改善していくことが求められる。これが、いわゆる「カリキュラム・マネジメント」である。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日 文部科学省）

・カリキュラム・マネジメントとは

【カリキュラム・マネジメントの3つの側面】

- ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた**教科等横断的**な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ② 教育内容の質の向上に向けて、子どもたちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の**PDCAサイクル**を確立すること。
- ③ 教育内容と、教育活動に必要な**人的・物的資源**等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら**効果的に組み合わせ**ること。

- ・カリキュラム・マネジメントとは

教科等横断的な視点：教育課程全体で取り組む課題

○ 現代的な課題

- ・環境教育 ・キャリア教育 ・情報教育
- ・防災教育 ・食育 ・ESD
- ・プログラミング教育 など

○ 育成を目指す資質・能力

三つの柱のバランスの取れた実現

- (1) 知識及び技能が習得されるようにする。
- (2) 思考力、判断力、表現力等を育成する。
- (3) 学びに向かう力、人間性等を涵養する。

- ・カリキュラム・マネジメントとは

P D C A サイクルの確立：授業を振り返る

◇ 教育課程の編成・実施・評価・改善

＜授業を振り返る＞

- ・学習評価－カリキュラム評価－学校評価
- ・単元を含む年間指導計画の評価
- ・年間指導計画を基にしたカリキュラム評価
- ・カリキュラム評価を基にした学校評価

・カリキュラム・マネジメントとは

人的・物的資源の確保

○ 人材や予算、時間、情報といった資源を、教育内容と効果的に組み合わせる。

○ カリキュラム・マネジメントは、全ての教職員が参加することによって、学校の特色を創り上げていく営み。

・カリキュラム・マネジメントとは
カリキュラム・マネジメントのねらい

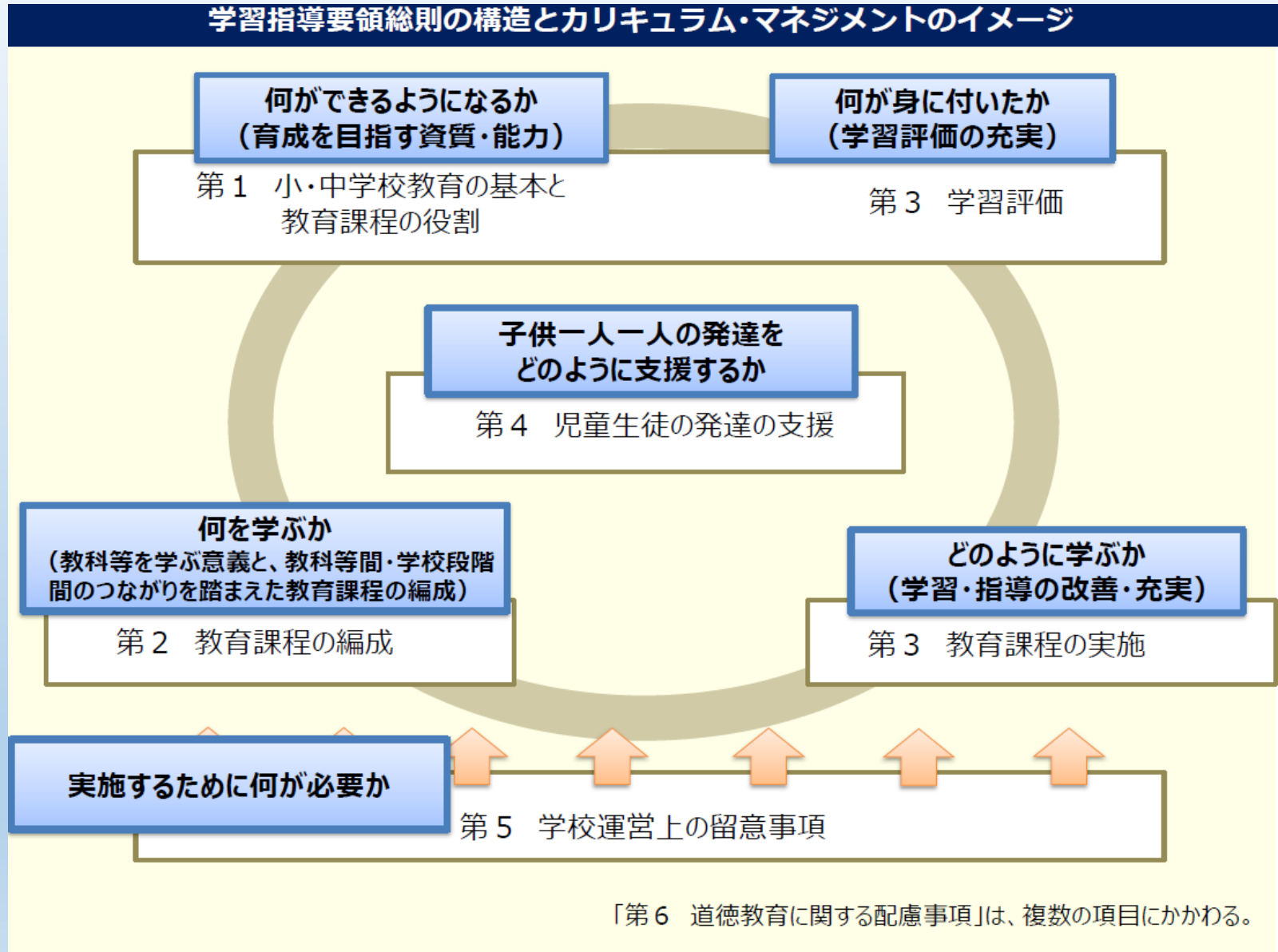
○過度に進行した教科等による縦割の教育課程、学校のシステムや組織運営の是正

○学校の全体的な在り方を改善

○学級担任や教科担任などに、自他の授業や学級経営が教育課程といかなる関係にあるか、学校教育目標の実現にいかなる役割を果たすか、などについて自らとの対話の促進

・カリキュラム・マネジメントとは

学習指導要領総則の構造とカリキュラム・マネジメントのイメージ



・カリキュラム・マネジメントとは

カリキュラム・マネジメントと総則

第1 小(中)学校教育の基本と教育課程の役割

第2 教育課程の編成

- 1 各学校の教育目標と教育課程の編成
- 2 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成
- 3 教育課程の編成における共通的事項
- 4 学校段階等間の接続

第3 教育課程の実施と学習評価

- 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- 2 学習評価の充実

・カリキュラム・マネジメントとは

カリキュラム・マネジメントと総則

第4 児童(生徒)の発達の支援

- 1 児童(生徒)の発達を支える指導の充実
- 2 特別な配慮を必要とする児童(生徒)への指導

第5 学校運営上の留意事項

- 1 教育課程の改善と学校評価(、教育課程外の活動との連携)等
- 2 家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携

第6 道徳教育に関する配慮事項

・カリキュラム・マネジメントの充実に向けて

教育課程の編成

明確な教育目標の設定

- 教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にする。

教科等間のつながりを意識して教育課程を編成・実施

- あらゆる教科等に共通した学習の基盤となる資質・能力や、教科等の学習を通じて身に付けた力を統合的に活用して現代的な諸課題に対応していくための資質・能力を、教育課程全体を見渡して育んでいくことが重要となる。

児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握

教育の目標を明確化

教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成
教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習の推進

教科等間のつながりを意識して教育課程を編成・実施することが重要

・カリキュラム・マネジメントの充実に向けて

【教育目標と教育課程の編成】

「教育目標」を教育活動の質の向上につなげるために

- カリキュラム・マネジメントの必要性について教職員間で理解を深める
- 各学校における自己評価の現状を学校全体で改めて確認する
- 年度当初に重点目標を明らかにして、各分掌、学年、教科等、教職員一人一人が目標を考える場面を設定する 等

教育課程の編成・実施に当たっては

児童生徒が学校を卒業し社会に出た後も見通し、
育成を目指す資質・能力を明確化

未来の姿から逆算して、現在の学年・教科・単元等でどのような指導を行うべきかという長期的な視点で行うことが重要

学校と家庭や地域、企業等とが育成を図る資質・能力やその重要性、発達の段階に応じた指導や長期的な視点に立った資質・能力の育成などについて認識の共有を図ることが重要

・カリキュラム・マネジメントの充実に向けて

【教科等横断的な視点からの教育課程の編成】

教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を選択

- ◆ 各教科等の内容相互の関連を図りながら指導計画を作成
- ◆ 児童生徒の生活時間と教育の内容との効果的な組合せを考える

各教科等の関連を明らかにした指導計画例 (「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」(小・中学校編))

各教科等を網羅した事例(小学校)

指導計画(第4学年)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総合的な学習の時間(70)	大塚あみどり引一 出度一 あみどり引一 (28) ○自分と他者との関わり、自己の考えを深める。 ○活動で実践した内容を、自己学習のために。 ○あみどり引一を学ぶための活動を通して、あみどり引一の魅力を伝える。				大塚あみどり引一 一とこも探求! あみどり引一 (30) ○自分と他者との関わりについて探究し、自己について自分の考えを深める。 ○探究で実践した内容を、自己学習のために、自分自身で発表できるように伝える。				
国語(245)	本と書物、人と人との関わり	読書の楽しさ、面白さ	読書の楽しさ、面白さ	読書の楽しさ、面白さ	読書の楽しさ、面白さ	読書の楽しさ、面白さ	読書の楽しさ、面白さ	読書の楽しさ、面白さ	読書の楽しさ、面白さ
社会(90)	自分と他者との関わり	自分と他者との関わり	自分と他者との関わり	自分と他者との関わり	自分と他者との関わり	自分と他者との関わり	自分と他者との関わり	自分と他者との関わり	自分と他者との関わり
算数(175)	数の性質	数の性質	数の性質	数の性質	数の性質	数の性質	数の性質	数の性質	数の性質
理科(105)	身のまわりの変化	身のまわりの変化	身のまわりの変化	身のまわりの変化	身のまわりの変化	身のまわりの変化	身のまわりの変化	身のまわりの変化	身のまわりの変化
音楽(60)	歌と楽器の演奏の楽しさ	歌と楽器の演奏の楽しさ	歌と楽器の演奏の楽しさ	歌と楽器の演奏の楽しさ	歌と楽器の演奏の楽しさ	歌と楽器の演奏の楽しさ	歌と楽器の演奏の楽しさ	歌と楽器の演奏の楽しさ	歌と楽器の演奏の楽しさ
図工(60)	絵画の楽しさ	絵画の楽しさ	絵画の楽しさ	絵画の楽しさ	絵画の楽しさ	絵画の楽しさ	絵画の楽しさ	絵画の楽しさ	絵画の楽しさ
体育(105)	運動の楽しさ	運動の楽しさ	運動の楽しさ	運動の楽しさ	運動の楽しさ	運動の楽しさ	運動の楽しさ	運動の楽しさ	運動の楽しさ

関連教科等を重点的に示した事例(中学校)

日	総合的な学習の時間の主な学習活動	教科等
	昔の暮らし-今の暮らし -昔の枝「炭」を生かしてスローライフを味わおう-	
5	①地域の暮らしに根付いてきた「炭」について関心を高めよう(8時間) ・昔の生活に欠かすことのできなかった「炭」について調べ、現代のエコ生活にも十分に活用できることについて理解する。 ・季節に応じて炭焼きに適した材料を集める計画やできあがった炭をどのように役立てるかの計画を立てる。	【社会】地理的分野 エネルギー地域の調査 【理科】第1分野(7)科学技術と人間(ウ)自然環境の保全と科学技術の利用 【技術】A材料と加工に関する技術ア、技術が生活の向上や産業の継承と発展に果たしている役割について考えること
6	②炭焼き名人森田さんから炭焼きの技を学ぼう(10時間) -地域に住む炭焼き名人に品質の良い炭の焼き方を習い、火のおこし方、管理の仕方、炭の焼き方、焼き方のコツについて学び、実際に炭を焼く。	【社会】地域の暮らしと産業の発展 【理科】第1分野(7)科学技術と人間(ウ)自然環境の保全と科学技術の利用 【技術】A材料と加工に関する技術ア、技術が生活の向上や産業の継承と発展に果たしている役割について考えること
7	③できあがった炭をどのように役立てるかももう一度計画を練ろう(4時間) ・できあがった炭を使って使用計画を作成する。それぞれの計画を基に意見交換しながら、全体としての計画をまとめていく。	【国語】B書くこと ア、日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること
	④炭の歴史や炭の活用法を調べ、計画に生かそう(2時間) ・計画立案の中で生まれてきたアイデアの実現可能性や炭のさらなる活用法を幅広く調査したり、情報収集したりする。	【国語】B聞くこと エ、必要に応じて質問をしながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること
	⑤できあがった炭を生活に役立てよう(4時間)	

・カリキュラム・マネジメントの充実に向けて

【教育課程の実施状況の評価と改善】

児童生徒の資質・能力の育成に当たって

- 各種調査結果やデータ等を活用して、児童生徒や学校、地域の実態を定期的に把握
- 教育の目的・目標の実現状況や教育課程の実施状況を確認・分析
- 課題となる事項を見だし、改善



- 学力調査等の結果の活用をカリキュラム・マネジメントに位置付ける。
- 学習評価を教育課程の評価等と結び付ける。
- 教育課程の評価を学校評価と関連付ける。



学習評価の改善を授業改善及び組織運営の改善等に向けた学校教育全体のサイクルに位置付けていくことが必要

教師全員がカリキュラム・マネジメントに参画し、学校がチームとして取り組むことが重要